

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】石原 豊一

【所属】(助成決定時)立命館大学大学院国際関係研究科

【研究題目】

グローバル資本化するプロスポーツのネットワーク構築のもとにおけるアスリートの移動研究
—イタリアプロ野球リーグに集うスポーツ労働移民の観察から—

【研究の目的】

スポーツの資本と結びついたグローバルな拡大の中、世界規模のトッププロリーグへの人材供給地となった途上国あるいは当該スポーツの盛んでない地域のプロリーグにおいては、グローバル化の進展以前には母国でアマチュアとしてしかプレーできなかったような競技レベルの高くないアスリートがプロ選手として国境を渡る例が出現している。

本研究者は、その背景としてグローバル経済下で、母国において現実的なライフプランを立てられなくなった若者の増加という、産業化社会の問題を仮説として提示した。本研究においては、MLB という巨大資本の影響の下、発足したと考えられるイタリアのプロ野球についてフィールドワークを実施することにより、この仮説を論証しようと試みた。このことは、閉塞感のある現代先進国社会に一石を投じるものではないかと期待される。

【研究の内容・方法】

本研究においては、経済的要因の薄い動機からプロアスリートを選んだ者が多いのではないかと推察される例として、北米を拠点とするメジャーリーグベースボール(MLB)の事実上のファームリーグとして新たに発足したイタリア野球リーグに着目する。この新興のプロ野球リーグに関しては、いまだ先行研究はないのが現状である。そこでまずは、英文のものを中心に欧州の野球についての文献を集め、この地の野球の歴史を概観し、またリーグのウェブサイトの選手ロスターをもとに選手の移動の分析を行った。そこからこのリーグに集まったスポーツ労働移民を抽出し、リーグ当局と加盟チームの協力の下、リーグの観察と選手へのインタビューを行い、国境を越えたネットワークを強化するプロ野球の世界の底辺のリーグにおいてスポーツ労働移民の枠組みが変容しているという仮説の論証を試みた。

本研究に際して行った調査は以下のとおりである。

- ① 先行研究に基づいたスポーツのグローバル化、欧州の野球普及、スポーツ労働移民についての考察
- ② フィールドワーク
- ③ 研究のまとめ

①については、広く欧州の野球についての研究所を検証し、これを書評として学会誌に発表したほか、現代社会におけるスポーツ労働移民、とりわけ従来の研究の射程に入っていなかったトップレベルとは程遠い競技力の選手の移動要因を探り、これについて、学会大会にて口頭発表した。

②については、イタリア野球リーグ関係者と連絡をとり、担当者に調査協力を依頼し、その上で、現地に出向き、景観調査、インタビュー調査、アンケート調査をおこなった。

③については、調査終了後、調査結果を目下のところまとめ、分析中である。その一部はすでに事例報告としてまとめられ、学会誌に投稿、現在査読者の指示の下、公刊に向けて修正中である。

【結論・考察】

プロスポーツのグローバルなネットワーク構築の中、先進国のトップリーグへ選手を供給する途上国のプロリーグは、それ単体で興行として成立しているというよりは、「労働力貯水池」として上位リーグへの選手の育成を大きな役割として機能させるようになっている。このようなプロスポーツシーンに参加するアスリートの多くは、一般に想像されるような卓越した技能を備えたトップアスリートではなくなってきている。さらに言えば、安価な労働力を求めた先進国のトップリーグの需要により成立している周辺国のプロリーグは、かつては、富を求めた貧国出身の若者が集う舞台であったが、情報、移動手段の発達により、母国では当該スポーツでプロになれないレベルの先進国のアスリートが、自己実現のため挑戦する場にもなりつつある。また、グローバル化の進展により、地球規模で見たトップリーグにとっての育成の場は世界中どこにでも成立しえるようになってきている。

しかし、今回調査したイタリアプロ野球の調査からは、不安定雇用とは言え、イタリアの若者の現状からみればさほどプロ野球という季節雇用は悪くないことがうかがえた。この点は仮説や日本の独立プロ野球の現実とは多少の相違がある、この点についてはこれからも理論的枠組みを考えて考察していかなければならない。